



見えるもの・見えないもの

世の中には、目に見えるものと目に見えないものがあります。

目に見えるもの。

それは例えば、「結果」です。

テストの「点」。

体育などの「技」。

作品や行動や態度もそうです。

基本的に学校では、「目に見えるもの」に集中的に評価が向けられます。

もちろん、目に見える世界も大切です。

しかし、そればかりが大切だとは言いきれないでしょう。

なぜなら、目に見えるものは、目に見えないものによって支えられているからです。

目に見えないものの代表、それは「こころ」です。

キューっと締め付けられたり、ポーっと恋焦がれたり、ウキウキ弾んだりするアレです。

心の存在を否定する人はいないはずです。

例えば、自分にとって物凄く大好きな人が目の前に現れたとしたら、どうなるでしょうか。

表情はきっと明るくなります。

声のトーンはきっと高くなります。

心拍数も上がって顔が紅潮するかもしれません。

行動も積極的になることでしょう。

心という目に見えない世界が変わっただけで、目に見える表情や行動はこ

こまで変わります。

目に見えない世界が、目に見える世界をしっかりと支えているのです。

他にも、「道のり」や「過程」も多くの場合目に見えません。

陰で積んだ努力とか、一所懸命準備に使った時間を、周りで見ている人は多くの場合知らないからです。

でも、結果はどう考えても、過程に支えられています。

多くの方は、オリンピック選手のような天才たちを自分とは別次元の人間だと切り離して考える傾向があると以前ある本で読みました。

しかし、その「天才」といわれる人たちの努力の過程を知ったら、きっと多くの方は「納得」するはずです。

そのパフォーマンスにふさわしい見えない部分の努力を、長い間積んできたことは間違いないからです。

—昨年、池江璃花子選手がオリンピック日本代表に選ばれたニュースが大々的に報じられていましたが、「天才」という一言では片づけられない並々ならぬ努力の道のりがあったことは想像に難くありません。

「努力は必ず報われる」と涙しながら語る彼女の姿に、積み重ねてきた「見えない努力」を想像し、胸熱くなるものがありました。

見えないものの代表で言えば、神様も目に見えません。

でも、「目に見えない」ものを「存在する」と明言する人はたくさんいます。例えば、プロ野球選手が次のコメントを発することがあります。

「野球の神様に感謝したいです。」

「野球の神様を感じた瞬間でした。」

プロ野球の中でも、屈指の名選手と言われる人ほどこういう言葉を口にする傾向があります。

でも、野球の神様が本当にいるのかいないのか。

そのことは、誰にも確かめることはできません。

けれども、その存在を確かに感じている人がいるのは事実です。

名だたる超一流の科学者たちも、その存在を言い続けています。

「何かあるとしか考えられない」と言うのです。

筑波大学名誉教授の村上和雄博士は、その存在にサムシンググレート（何か偉大なもの）と名付けました。

作家のパムグラウトさんは、フィールドオブポテンシャルと名付けています。

見えないものを出したらきりはありません。

サンタがそうです。

友情も優しさも愛も絆もそうです。

お馴染み「そんなことしたらバチが当たるよ！」のセリフも、誰がどんなバチを当てるのかは誰にも分かりません。

でも、そうした見えざる存在を信じたり、心の拠り所になっている人は世界中にいます。

大切にすることで、心が整ったり、潤いを取り戻したり、安らぎや癒しが生まれているからなのでしょう。

サン＝テグジュペリ作、「星の王子様」にはこんな一節があります。

家でも、星でも、砂漠でも、それを美しくしているのは、目に見えないものなんだね。

ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。

いちばんたいせつなことは、目に見えない。

見える世界は、見えない世界によって支えられています。

だからこそ見えないもの、見えない世界を大切にしていきたいと思っていますし、そう在りたいと常に思っています。

昨日、1年生を迎える会が終了しました。

言葉には語りつくせぬほどの、感動や熱気が生まれた会となりました。

4年生のみんなは、何度も言っていました。

「こんなにみんなが喜んでくれるなんて」

「自分たちの方がびっくりしました」

それくらい、会場全体が沸きに沸いて、笑顔の花がいたるところに割っていました。

喜びを通り越して、驚きや感動が生まれた話もいくつも聞きました。

何せ、会の進行や発表を見ていた先生方の中には、涙されている方々もおられたほどですから。

特に、昨年までに特に沢山お世話になっていた先生方の感動はひとしおだったようです。

職員室に戻ってからも、先生方が口をそろえて言っていました。

「4年生が本当にすごかった。その成長が本当に嬉しかったです」と。

校長先生も副校長先生も、理事長先生も心の底から 4 年生のみんなの成長を喜んでくれましたね。

全校合唱の時には、目に光るものが見えていたとの話も聞きました。

さらには後輩たちからもたくさんの驚きや喜びの声が。

「こんな会を作れるなんてすごい！」

「僕たちにも来年あんなにすごいのが作れるのか分からない」

恐らく、いやほぼ間違いなく、下級生の子たちには、ここまでの「道のり」や「努力」は見えていないのでしょう。

それはそうです。

見えない世界なのですから。

でも、それがみんなには見えていることでしょう。

昨日の会は、偶然できたわけでもなく、何らかの奇跡が発生したわけでもなく、みんながひたむきに取り組んだ上でのある意味必然の結果だったように思うからです。

山ほどの喜びと驚きと感動が生まれた 1 年生ウェルカムプロジェクト。

また、増田さんから映像や写真をもらい次第、Venture fourth の紙面でも紹介していきます。



プロジェクトの大成功をお祝いして記念写真を撮りました。ご家庭でも様々な形でご協力いただき、本当にありがとうございました。

☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

